

中国における NIPSEA 事業の Q&A

- 水曜日 - 27 10 月 2021

10 月 20 日に日本ペイントホールディングスから先日行われた NIPSEA 事業説明会の Q&A 内容が発表されました。かなり具体的に現在の状況が説明されており、中国の汎用についての情報に疎い私にとっては大変興味深い内容でした。おそらく大半の日本の塗料関係者は、中国の建築塗料の商売には直接携わっていないものと思われるが、国別では世界最大の塗料市場である中国の市場状況とその市場で間違いなくトップの一角を占めているに違いない会社の戦略は、なにがしかの参考になるのではないかと思います。Q&A の中から私なりにまとめてみた内容をご紹介します。全文は下記 URL よりご覧いただけます。

https://www.nipponpaint-holdings.com/assets/files/name/20211026ir01_j.pdf

まず、中国市場の概況です。

中国市場の見通し その 1

1. 塗料の成長要件 GDPより高い成長
2. アジアの塗料需要成長率
世界最速 (アジアのGDP成長4-5%率、その他0-3%)
3. 中国の市場
塗料使用量 世界平均7.5-8.0Kg/年に対し中国は約1/3 今後差は縮まる
都市化の進展 2016年都市化率50%⇒現在60-70% さらに拡大中
市場変化 10年前 新築住宅主流⇒新築1/3、リノベーション2/3
大都市圏 新築≒リノベーション
中小都市 いまだ新築中心

最初に塗料は GDP よりも高い成長率で成長できるとしています。これは一人あたりの GDP が低い間は、個人消費の成長に加えインフラ整備の需要も見込まれるという意味かと解釈しました。そしてその GDP 成長率においては、アジアが世界最速であり、NIPSEA はそうしたアジアに基盤を置いているため高成長を見込めるとの認識を示しています。

現時点での中国の塗料消費の現状は世界平均の 1/3 にすぎませんが、この差はどんどん縮まるとの認識です。一方で都市化は依然として早いスピードで進展しており、今後ますます都市化が進むようです。そうした都市において、大都市はかつての新築中心からリノベーションへ需要が移ってきているとしています。この理由については、かつて建設されたビルが老朽化を迎えており、としています。このほかに新しいビルにおいて、特に外壁では塗料が使用される部位が減少しているのではないかと想像しています。ただし中小都市は依然として新築中心であるとのことでした。

中国市場の見通し その2

4. 中国市場でのNIPSEAの立ち位置・戦略

基本 市場成長を上回る成長を果たす 人材・ブランド力・技術力の組み合わせ
DIY シェア約33% 非常に優位だがまだ全体のパイが小さく成長機会大きい
自動調色機3000第投入、6000台まで増加 プレミアム、ヘルスケア狙う
リノベーション 競合他社をリード、8年前からこの分野に注力
Project これまでディベロッパー上位30社を中心に推進 この10年大幅成長
⇒ Project売上の40%を上位30社が占める 但しシェア9%
Evergrande社 重用顧客だが日本ペイントグループの売上の1%（約10億円）以下
(永大) 同社流動性の問題の対応⇒代金回収として同社のオフィスビル取得

そうした中国市場での NIPSEA の立ち位置と戦略についてはかなり詳しく説明されていました。基本の考え方が市場成長を上回る高成長を果たすというもので、リーディングポジションを死守するための必要十分条件と思われれます。

DIYについては圧倒的なシェアに満足せず、伸びしろの大きなこの分野に自動調色機を大量投入するとのことでした。これは、買いに来た人がその場で色見本帳の中から選んだ色をその場で調色して販売するという、いわゆる店頭調色販売を拡大するということです。この方式は初期投資こそかかりますが、塗料メーカーにとってもメリットのある方法です。そのメリットとは、第1に販売単価が高く設定できることです。その場で自分の好みの色を作ってもらえるので購買者は多少の価格差を問題としません。第2に店頭在庫量を低減できます。店頭調色の場合には、ベース塗料(白、淡彩、濃彩、艶消しなど)を3-4種類だけ持っていれば、あとは調色用の十数色のカラーペーストだけで賄えますので、生産、配送、在庫管理が容易になります。日本でこそ普及していませんが、DIYまたはBIY(Buy it yourself)の多い国では普通に行われています。自動調色機1セットの価格は決して安くありませんが、長期的に見て投資効果は十分にあるとみているのでしょう。

Evergrande 社の信用不安から生じた中国の不動産バブル崩壊への懸念についても言及しており、同社の売掛金はグループ全体の1%以下に過ぎないと説明しています。この日本ペイントグループが本当に世界中の日本ペイントグループ全社指すのであれば約10億円以下ということになり、確かに全体からみれば特に問題とならない程度の影響しかないということになります。

中国市場の見通し その3

5. 今年度見通し

上期決算 売上前年比+55% 下期も+20%台の見通し
原材料費10-20%UPだがすでに2回値上げ実施 ⇒ ある程度コストUPを緩和見込み
設備投資 中国52工場+4工場建設中 生産性向上による人員増抑制

今期の見通しについても述べられていましたが、驚いたのは中国に52も工場があること、それだけでなくさらに4工場が建設中であることです。確かに中国における日本の塗料メーカー関係の生産数量が約400万トンであり、日本国内生産数量の3倍近くもあり、そのほとんどがNIPSEA中国でしょうから、それくらい工場があっても不思議ではないのですが、1工場あたりの生産数量が8万トン/年とこれまたかなり大きな数値であり、その全体の生産スケールの大きさに改めて驚かされます。

実は Q&A には中国以外にもインドについての質問も掲載されていました。こちらについては、「インドで現在第5位の位置にあり、ここから上を目指すには大規模投資が必要となる。しかし投資の条件がそろっておらず、投資条件が整うまで NIPSEA に預けることとした」というような内容でした。このところの Chromology 買収についても深謀遠慮が見えます。インドについても2-3年後にはそうした深謀遠慮が開花するのではないかと密かに思っています。